団体表彰

東京都北区

映画製作会社FireWorks

日本初の「市民参加型映画」事業
―映画撮影後の地域づくりに貢献―

FireWorks ● 武藤直樹

「映画による地域づくり」はいま、全国各地さまざまな形で見られるようになった。ロケ誘致による経済効果を図るフィルムコミッション、映画館再生や市民映画祭による文化振興活動など、「映画」は地域づくりの一つのツールとも言われている。

そうしたなかで、映画製作会社FireWorksが各地で展開している「市民参加型映画」が非常に独特な存在として、注目を集めている。

あらゆるプロセスに地域住民が主体的に参加

企画・製作・配給、あらゆる「映画」のプロセスに数多くの地域住民が主体的に参加しながら一本の映画を創り上げる手法だ。行政、商工団体、NPO法人などの地域団体とFireWorksがパートナーシップを築きながら、映画製作事業を推進していく。脚本作りの場は地域課題について世代を越えて深く対話する場を創出し、そこから地域の未来へ届ける物語が生まれる。

また、何千人もの住民の笑顔を撮影する「応援メッセージ」や、市民キャストを選出する「公開オーディション」など、地域愛を育むユニークな関連イベントをFireWorksは企画している。プロジェクトの進展とともに、市民スタッフの輪が地域全体に広がり、地域における新たな人の絆が形成されていく。

さまざまな「参加の場」をひらき、市民スタッフの誰もがプロジェクトの「立役者」に成り得る点が、ご当地映画やフィルムコミッションとの大きな違いである。完成した作品が海外の映画祭で受賞し、それが地域の誇りとなった事例もある。

「映画づくりで住民同士が仲良くなればいいという単純なものではない。一人一人が本気で映画にコミットし、意識の変革が生まれていくことが大切。映画づくりも、まちづくりも、それがなければ始まらない」と、FireWorks代表を務める映画監督の林弘樹は語る。

実際に二〇〇三年の『らくだ銀座』以来、FireWorksとともに映画を製作した地域では、映画市民スタッフの多くが今なお、継続発展的にさまざまな地域づくり活動を展開している。映画が生んだ火種が、地域の未来を創造している、とも言える。

映画づくりは究極のものづくり、人づくり

FireWorksの脚本家・栗山宗大は「映画づくりは、究極のものづくりであり、人づくり。映画が持つ可能性を、とことん探求していきたい」とも語っている。従来にはない新たな発想で映画を創り、届けていく。それこそが林、栗山両氏が設立したFireWorksへの想いである。その一つの形が「市民参加型映画」の手法だった。

ふと、どこかのまちの片隅で「映画づくりでまちを元気にしたい！市民の心をつなぎたい！」という想いを抱く人間とFireWorksが出会う時、そこに「映画」が生まれる。

地域という舞台で誰もが「主役」として参加して、あらゆる想いをムキ出しにして、未来への物語を創造していくのだ。

＊　＊

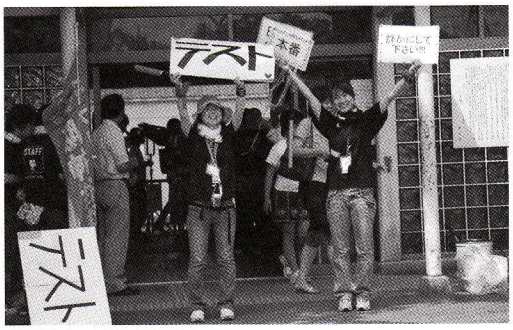
●市民総参加の映画プロジェクト

最新作「ふるさとがえり」

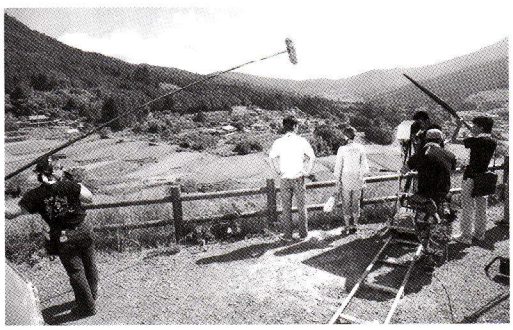
http://www.enakoko.com/

お問い合わせ

http://www.fireworks-film.com/



「未来へ届け！私たちの物語！」


地域の思いをフィルムに込める